

講座名「自然災害から家族の命を守る」

講座のねらい

市川市の防災対策を知り、災害が起こった時、自分の地域がどういう状況が予想されるのか、どう対処すべきかを学ぶ。災害時の料理を体験することで、普段から災害に備える意識を持つ。定期的に講座を行うことで、地域に防災意識を広める。



第1回（6月16日）

講師：危機管理室地域防災課

市の職員から地震と水害について前後半に分けて、予想される被害や、防災情報の入手の仕方等、具体的に教えてもらった。また実際に大洲防災公園の防災機能を見学し、最後にエコノミー症候群の予防になるストレッチも教えてもらう、という充実した内容だった。

第2回（6月23日）

講師：水島重光 氏

講師の被災体験や被災地支援活動に基づいた内容で、紙おむつの活用法や日頃からどういう物を備えておくべきか、講師ならではの話が聞けた。



第3回（6月30日）

講師：小野沢旬子 氏

ライフラインが途絶えて在宅避難になった場合の調理で、ご近所の方々と協力して作るイメージで取り組んでもらった。ポリ袋調理等、初めての体験に皆さん意欲的に取り組んでいた。

参加者の声

- ・一歩進んで災害対策を考える機会となりました。1回～3回、内容も充実していてとても良い講座でした。
- ・今まで防災と心では思っていたのですが、具体的に実習もあり大変参考になりました。
- ・とても充実した体験ができ、災害時に備えることが少しは出来るようになったと思います。
- ・大変勉強になりました。即実践できる事は、しようと思います。今日の料理も実践したいと思います。

成果と課題

防災の講座を3週連続受けようと思うのは、かなりハードルが高いのか、今回も定員割れとなったが、参加された方の満足度は高く、3回シリーズで受けることで、段階的に意識を深めてもらえた。

7月初旬の九州における、集中豪雨。気象庁は住民に「自らの命を守る対応を」と呼びかけた。この主催講座に参加された方々は、改めて災害に備える意識を強めることがいかに重要であるかを再確認されたことであろう。応募者数が他の楽しい講座と比べ低いものの、昨年同様、受講者の意識は高く、そこから広がる危機意識に大いに期待したい。それとともに、健康寿命の延伸のテーマは主催講座の重要なファクターではあるものの、それとは別に本来の行政機関が持つ住民の安全を守るという責務に立ち、今後も当館ではこの講座を定期的に続けていきたいと考える。